

厚生労働行政推進調査事業費補助金（難治性疾患政策研究事業）
 分担研究報告書
 プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班

東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況

研究分担者：青木正志 東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座 神経内科学分野
 研究協力者：加藤昌昭 総合南東北病院 脳神経内科

研究要旨

【目的】東北地方におけるプリオン病の疫学、臨床症状等を調査し、解析する。

【方法】2020年度（令和2年度）における東北地方在住で新規申請されたプリオン病疑い患者についてのサーベイランスを行った。プリオン病が否定的な症例については電話にて調査を行った。プリオン病が疑わしい症例に関して、宮城県の症例については実地調査を行い、その他の県の症例についてはその県の専門医に依頼し調査を行った。

【結果】プリオン病疑いとして調査依頼をうけた症例は、2020年度の1年間で25例であった。内訳としては、青森県1例、岩手県6例、宮城県2例、秋田県6例、福島県5例、山形県5例であった。獲得性クロイツフェルト・ヤコブ病0例、遺伝性プリオン病の症例は2例であった。本年度剖検数は0例であった。

【結語】東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況を報告した。今後も継続的に調査を行うことが必要であると考えます。

A. 研究目的

東北6県におけるプリオン病の疫学、臨床症状等を調査し、解析する。

例であった（図）。

B. 研究方法

2020年度（令和2年度）における東北地方在住で新規申請されたプリオン病疑い患者についてのサーベイランスを行った。プリオン病が否定的な症例については電話にて調査を行った。プリオン病が疑わしい症例に関して、宮城県の症例については実地調査を行い、その他の県の症例についてはその県の専門医に依頼し調査を行った。

**令和2年度 東北地方
プリオン病疑い症例数**



• 青森	1 例
• 岩手	6 例
• 秋田	6 例
• 宮城	2 例
• 山形	5 例
• <u>福島</u>	<u>5 例</u>
• 計	25 例

（倫理面への配慮）

患者個人情報取り扱いに関しては匿名化を行い、患者、家族にサーベイランスに協力いただくことに関して書面にて同意を取得した。

C. 研究結果

プリオン病疑いとして調査依頼をうけた症例は、2020年度の1年間で25例であった。内訳としては、青森県1例、岩手県6例、宮城県2例、秋田県6例、福島県5例、山形県5例であった。獲得性クロイツフェルト・ヤコブ病0例、遺伝性プリオン病の症例は2例であった。本年度剖検数は0

平均年齢は71.7歳、男性15例、女性10例であった。プリオン病を否定できた症例は1例となった。

令和2年度調査症例

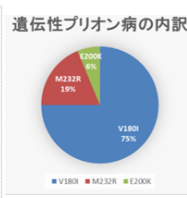
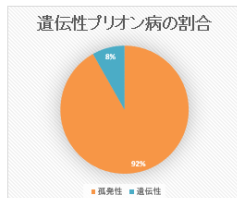
Nd.	サーベイランスNo.	性別	年齢	県	備考
1	7241	男	73	福島	
2	7262	男	64	福島	
3	7287	男	73	岩手	V180I
4	7289	男	68	福島	E200K
5	7299	男	47	山形	
6	7330	女	64	青森	
7	7340	男	59	秋田	
8	7341	男	70	秋田	
9	7345	男	78	宮城	
10	7373	女	75	秋田	
11	7478	男	60	岩手	
12	7486	女	85	秋田	
13	7501	女	83	山形	
14	7515	男	64	岩手	
15	7611	男	65	山形	
16	7628	女	69	山形	
17	7676	男	71	福島	
18	7685	女	30	岩手	
19	7688	女	61	秋田	否定
20	7692	女	96	秋田	
21	7693	男	70	山形	
22	7698	女	74	宮城	
23	7700	女	66	岩手	
24	7740	男	74	福島	
25	7808	男	82	岩手	

計 25例
 平均年齢 71.7歳
 男性15 女性10
 否定例 1例
 遺伝性プリオン病 2例

遺伝子変異を伴うプリオン病の症例は今年度は2例を見いだすことができた。他は孤発性のプリオン病であった。

令和2年度東北地方(6県)総計

例数(n)	孤発性CJD	遺伝性プリオン病	獲得性プリオン病	分類不能	CJD否定
例数(H31)	17	0	0	0	6
例数(H30)	23	0	0	0	2
例数(H28)	26	2	0	0	5
例数(H28)	17	1	0	0	2
例数(H27)	29	5	0	0	13
例数(H26)	21	1	0	0	1
例数(H25)	20	6	0	0	9
例数(H24)	11	0	0	0	5
例数(H23)	14	1	0	0	1
計	206	18	0	0	44



D. 考察

プリオン病発症率は東北6県人口約1,000万人とすると、年間発症率は約0.25人/10万人/年であり、おおむねこれまでと同様の発症率であった。

E. 結論

東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況を報告した。今後も継続的に調査を行うことが必要であると考えます。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし